

腰椎椎間板ヘルニアのための 診察・検査

□どんな症状がある時に、腰椎椎間板ヘルニアを疑って 病院を受診すべきですか□

次の3つの症状が出たときに、ヘルニアを疑い病院を受診すべきです。

1. 腰からお尻、太もも、すねのほうに広がる痛みやしびれがある



- 時。痛みやしびれは、咳せきやくしゃみで強くなります。
2. 痛みやしびれに伴い、足の感覚が鈍くなったり、足の力が弱くなり、歩く時などに不都合を感じる時。
 3. 足の激痛げきつうや強いしびれに伴い、尿が出づらくなった時。
特に、3. の場合には、膀胱ぼうこうへつながる神経障害の可能性がありますが、まずから緊急の受診が必要です。腰椎椎間板ヘルニアで、以上の症状がある時には、針灸しんきゅう・あんまなどでマッサージや整体せいたいをやるのはむしろ危険な場合があります。まず初めに病院を受診することをお勧めします。

QUESTION

1

何科の先生に診てもらうのが良いですか？

ANSWER

背骨の病気は「整形外科」が専門とし、数多くの患者さんを治療してきた長い歴史があります。ですから、腰椎椎間板ヘルニアを疑う場合、あるいはその可能性をわかりつけのお医者さんなどに指摘された場合、整形外科医に診てもらうのが一番です。整形外科を標榜する医院・病院のなかでも、専門・認定医資格を持つ医師がいる医療機関を受診されることをお勧めします。

日本整形外科学会（日整会）では、経験ある医師に「整形外科専門医」の資格を与え、最近ではさらに「脊椎・脊髄病認定医（整形外科専門医の資格を持つ医師のなかで、さらに背骨の病気の診療にも詳しい医師に与えられる）」の資格を与えています。全国の専門医・認定医は、日本整形外科学会のホームページ（<http://www.joa.or.jp/jp/index.asp>）で探すことができます。

また、日本脊椎脊髄病学会でも、脊椎脊髄外科手術の技量を認められた認定外科指導医の資格を与えています。

どのような診察を受けるのですか？

ANSWER

整形外科医を受診すると、まず問診（医師が患者さんにいくつかの質問をし、病歴などを聴取する診察）があります。尋ねられる項目はたくさんあると思いますが、主な質問は次のようなものです。

1. 腰の痛み以外に足の痛みやしびれはあるか？ あるとすれば、足のどの部分か？ 膝の下のほうまでいっているか？
2. 足の痛みが太ももやすねなどにある場合、内側か外側か後ろ側か？
3. 痛みやしびれは、どんな時に強くなるか？ 咳やくしゃみで強くなるか？ 安静にじっとしている時はどうか？
4. 痛みやしびれは持続的にあるか？ 発作的に来るものか？

問診が終わった後で、患者さんに身体を動かしていただいたり、医師が患者さんの身体に触ったりすることで、診察を行います。具体的には、下肢伸展挙上テスト（Straight Leg Raising Test, SLRテスト）、大腿神経伸展テスト（Femoral Nerve Stretching Test, FNSテスト）および神経障害を調べる診察が重要です。

(1) SLRテストとFNSテスト

医師が患者さんの膝を伸ばした状態で、上に持ち上げた時、太ももの後ろからふくらはぎやすねの外側に沿って痛くなるかどうかを調べる診察法です（図1）。つまり、患者さんの足の痛みを再現する方法といえます。この部位の痛みは、第4腰椎と第5腰椎の間や第5腰椎と仙骨の間の腰椎椎間板ヘルニアの時にみられます。痛



図1 下肢伸展挙上 (SLR) テスト



図2 大腿神経伸展 (FNS) テスト

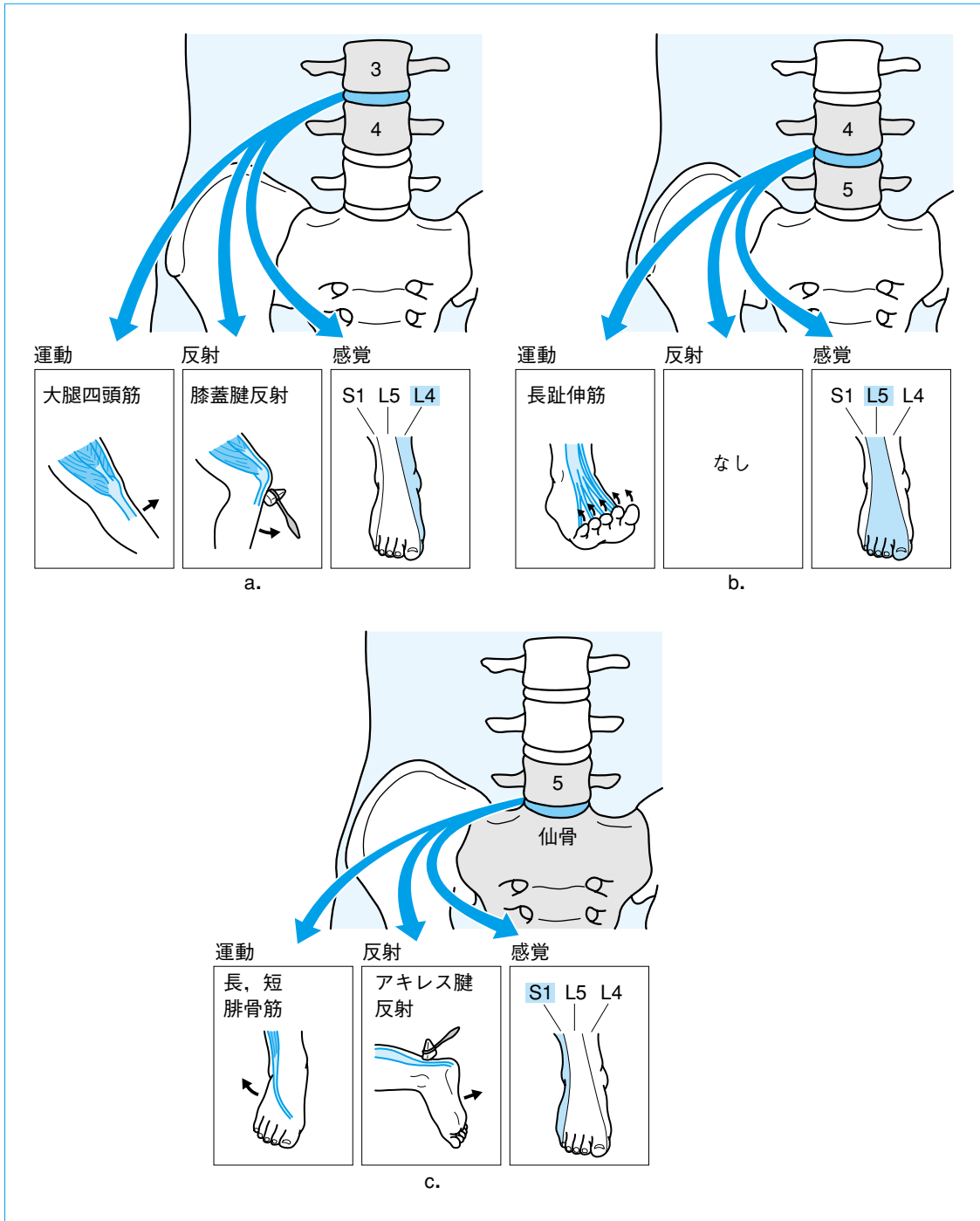


図3 腰椎椎間板ヘルニアにより障害される筋肉，感覚，腱反射

a. 第3腰椎と第4腰椎の間の椎間板ヘルニアの場合

b. 第4腰椎と第5腰椎の間の椎間板ヘルニアの場合

c. 第5腰椎と仙骨の間の椎間板ヘルニアの場合

(Hoppenfeld S 著，野島元雄監訳：図解四肢と脊椎の診かた，医歯薬出版，東京，1984より改変して引用)

みがみられた場合を、SLRテスト陽性と呼びます。このテストは、ようついついかんぼん腰椎椎間板ヘルニアでは最も重要な診察法の一つです。しかし、高齢者の場合では、このSLRテストが陰性である場合が多いとされています。

一方、ヘルニアの発生する椎間板が第1腰椎と第2腰椎の間、第2腰椎と第3腰椎の間、第3腰椎と第4腰椎の間の場合、足の痛みは一般的に太ももの付け根や前側、すねの内側に生じます。この場合の足の痛みを再現させるテストは、FNSテストと呼ばれます(図2)。高齢者では、このテストも陰性である場合が多いとされます。

(2) 神経障害を調べる診察(神経学的診察)

腰椎椎間板ヘルニアでは、飛び出した椎間板によって、しんけいこん神経根や馬尾ばびなどの神経組織が障害を受けます。神経学的診察を行うことにより、どの部位の椎間板が飛び出しているかをある程度推察することができます。具体的には、次の3種類の診察を行います。

1. 筋肉の力
2. 感覚(痛みや温度)
3. 腱反射(腱をたたいて反応をみる)

何故かという、ヘルニアによって障害される神経それぞれで、障害を受ける筋肉、感覚の部位、腱反射が違うからです(図3)。例えば、第4腰椎と第5腰椎の間の椎間板に生じるヘルニアでは、一般的に第5ようずいしんけいこん腰髄神経根と呼ばれる神経が障害を受けます。これによって、足の親指を上にとらす筋肉(長母趾伸筋ちようぼししんきん)の力が弱まります。感覚では、すねの外側から足の甲側が鈍くなります。しかし、腱反射は障害を受けません。

以上の例は、あくまで一般的な場合で、これに当てはまらない場合があることも考慮する必要があります。このように神経学的検査を行うことにより、ヘルニアが発生した椎間板をある程度推察することが可能になります。

診察の他にどのような検査が必要ですか？

ANSWER

腰椎椎間板ヘルニアと診断するためには、それほど多くの検査はいりません。整形外科で行われる一般的な検査法を説明します。

(1)レントゲン写真

一般に撮影されるレントゲン写真は、整形外科が専門とする病気や怪我の診断に欠かせない、非常に重要な検査法です。しかし、軟骨である椎間板はレントゲン写真には写らないため、腰椎椎間板ヘルニアをレントゲン写真だけで診断することは不可能です。ヘルニア以外で腰痛や坐骨神経痛の原因となる病気や怪我の診断には非常に重要です。それには、腰椎への癌の転移、感染症、骨折などがあります。

(2)MRI

MRIは、腰椎椎間板ヘルニアを診断するうえで、一番優れた検査法です(図4)。MRIを撮ることにより、ほぼ確実にヘルニアの診断は可能です。「短時間で、身体への負担・痛みもなく、安全に行うことのできる優れた検査法」と言えます。しかし、腰椎椎間板ヘルニアのなかには、痛みやしびれなどの症状をまったく出さず、治療の必要がないヘルニアがあります。これを「無症候性椎間板ヘルニア」と呼びます。

症状を出し治療が必要なヘルニアと、無症候性のヘルニアを見分けることはMRIでは不可能です。ですから、専門医によるしっかりと診察が必要になります。

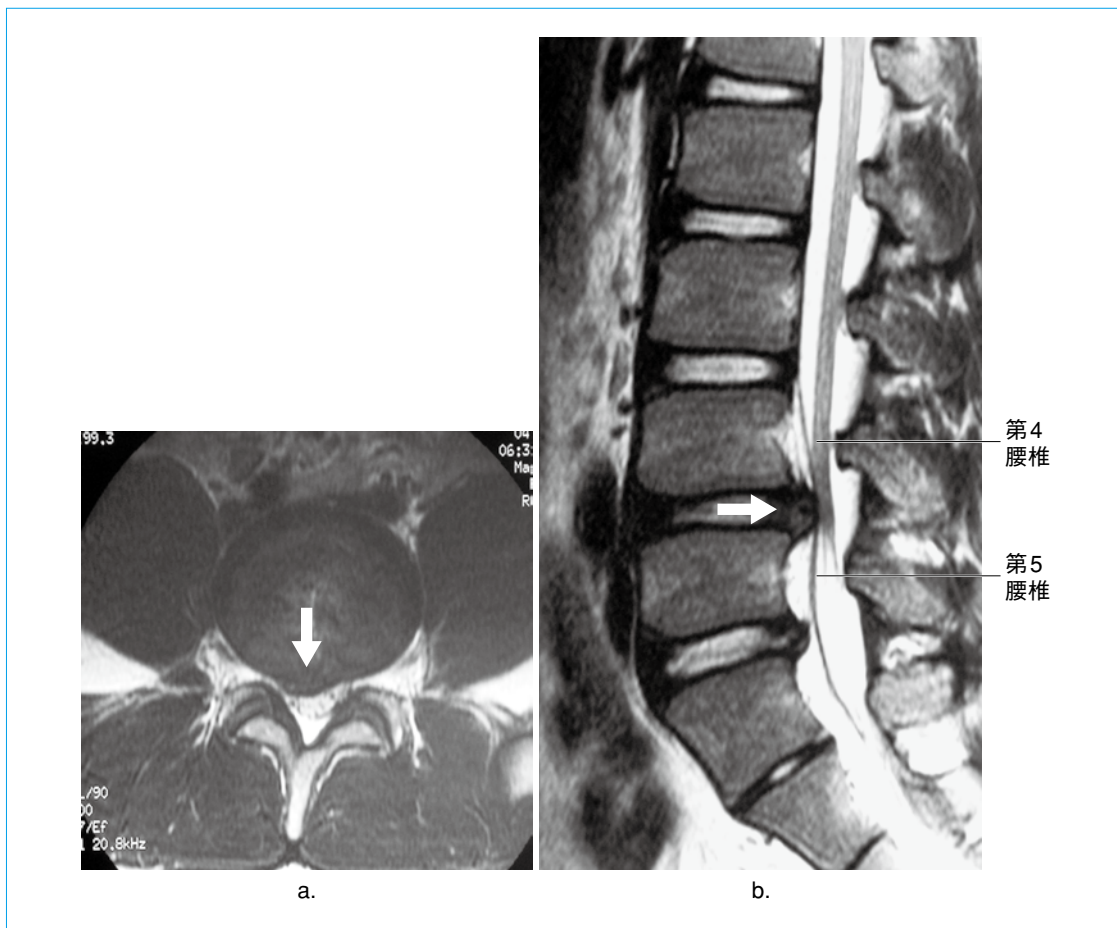


図4 腰椎椎間板ヘルニアの代表的MRI像

- a. 横からの断面図
- b. 水平断面図

MRI検査を受けるためには、次のような注意事項があります。

1. 身体のなかに金属が入っていないこと。骨折の治療や、^{どうみやくりゅう}動脈瘤・脳血管手術の際に使用した金属器具が身体のなかに入っている方、ペースメーカーを埋め込んでいる方、また金属製顔料を使用した化粧や刺青をしている方はMRI検査を受けることができません。
2. 狭い空間で極度に不安になる方 (^{へいしよきょうふしやう}閉所恐怖症) もMRI検査に耐えられないことがあります。

詳しくは、病院、担当の医師にお尋ね下さい。

(3) その他

CT (Computed Tomography, コンピューター^{だんそうさつえいほう}断層撮影法),
脊髄造影検査^{せきずいぞうえいけんさ}, 椎間板造影^{ついかんばんぞうえい}, 神経根造影^{しんけいこんぞうえい}, 電気を使用する神経検査
などがあります。しかし、治療が必要な腰椎椎間板ヘルニアである
か否かの判断は、専門医の適切な診察と MRI 検査があれば十分で
す。